

今日はキリストの聖体の祭日で、私たちがイエス様の御体と御血の聖なる食卓に招かれていることに感謝しつつ、いつもその神秘に与るにふさわしい人となることを祈り求める日です。イエス様はご自分の命を捧げ、十字架上で御父の救いの計画を全うされました。その前日、イエス様は最後の過越しの食事を弟子たちと共にされましたが、その時、イエス様はパンとぶどう酒を持って、弟子たちと新しい契約を結ばれました。イエス様はその新しい契約をもって、昔の古い契約の終結と、新しい契約の時代の開幕を宣言されたのです。

そもそも、過越し祭とは、イスラエルの民がエジプトから解放されたことを記念するもので、イスラエルはそれを行う度に、神様との契約を更新してきたわけです。その契約は勿論、神様にとっても、イスラエルの民にとっても、互いに確かな義務が負わせられる「双務的な契約」と言われます。つまり、神様にはイスラエルを守り祝福する義務が、また民には、イスラエルの神様だけを敬い、その神様だけに従う義務が負わせられるということです。神様はイスラエルの民のために、十戒という彼らが守るべき掟を授けましたが、その掟の核心は「神様を愛し、また、隣人を自分のように愛する。」ことでした。しかし、イスラエルの民はエジプトから解放されたばかりの頃、神様を疑ったり、神様に背いたりし、更に、約束された土地に住み始めてからは、隣の国や様々な偶像に従う愚かな罪を繰り返して犯しました。また、隣人を愛しなさいと言う掟を破り、数多くの律法を作って多くの人を罪人と断罪し、色々な基準や規則を設けて人を束縛したり、苦しめたりしました。彼らは神様の愛と慈しみによって自由民となったのに、自ら隣の国や偶像の奴隷の道を選びました。そして、互いに憎み合い、争い合いながら、隣人を自分の基準や規則の奴隷にしようとしました。こうして、神様の愛と慈しみによって結ばれた昔の契約は、その民によって無意味なものとなってしまったわけです。

今日の福音で、イエス様は弟子たちと共にイエス様ご自身の最後の過越しの食事、すなわち、最後の晩さんをなさいました。それは最初のミサとも言われますが、そこでイエス様は弟子たちに新し

い^{すぎこ}過越し祭^{さい しめ}を示^{つみ し}されました。それは罪^{すぎこ}と死^{さま}からの過越^{さいご}しで、イエス様はその最後^{ばん}の晩^{みずか}さんで、自ら^{おんちち}をその新^{あた}しい過越^{すぎこ}し祭^{さい}の小^{しょうひつじ}羊^さとして差^さし出^だしてくだ^ださいました。イエス様はそれこそが御父^{おんちち}の望^{のぞ}みであることを知^しり、その尊^{とうと}い犠^{ぎせい}牲^{さんび}を賛美^{かんしゃ}と感謝^{いの}の祈^{なか}りの中^うで受け止^とめられました。こうしてイエス様はご自分^{さま}の命^{じぶん}をもちて弟^{いのち}子^{でし}たちと新^{あた}しい契^{けいやく}約^{むす}を結^とばれましたが、その時^{とき}イエス様は弟^{さま}子^{でし}たちに「互^{たが}いに愛^{あい}し合^あいなさい。」という新^{あた}しい掟^{おきて}を授^{さず}けられました。その新^{あた}しい契^{けいやく}約^{おきて}と掟^{おきて}は、それから弟^{でし}子^{はたら}たちの働^{まごころ}きによつて真^{かみさま}心^{しん}をもちて神^{ひと}様^{きょうかい}を信^{およ}じたすべ^{けいやく}ての人^あ、つまり、教^お会^{けいやく}にも及^あぶ契^お約^いです。イスラエルの民^{たみ}が破^{やぶ}ってしまった昔^{むかし}の契^{けいやく}約^{おきて}とその掟^かの代^おわり^かに、イエス様は新^{さま}しい契^{あた}約^{けいやく}と愛^{あい}の掟^{おきて}を教^{きょうかい}会^{さず}に授^{きょうかい}け、教^{ひと}会^{ひと}の人^{ひと}々^{ひと}がいつまでも新^{あた}しい契^{けいやく}約^{おきて}と掟^{ちゆうじつ}を忠^{まも}実^{まも}に守^{まも}り、教^{きょうかい}会^{ひと}の人^{ひと}々^{ひと}が愛^{あい}に満^みち溢^{あふ}れて生^いきるよ^いうに、と命^{めい}じら^{めい}れたのです。そうい^{わたし}うわけ^{わたし}で、私^{わたし}たちはミサ^さを捧^さげ^さる度^{たびごと}毎^毎に、イエス様^{さま}の死^しを思^おい起^おこしな^おがら、自^じ分^{ぶん}も罪^{つみ}に對^{たい}して死^しに、また、イエス様^{さま}の愛^{あい}に生^いきながらその復^ふ活^{かつ}と永^{えい}遠^{えん}の命^{いのち}に与^あずか^あることを待^まち望^{のぞ}むのです。その思^おいを込^こめて、私^{わたし}たちはミサ^{なか}の中^{しんこう}で「信^{しん}仰^びの神^{うた}秘^ひ」を歌^{うた}うのでし^{しゅ}ょう。「主^{しゅ}の死^しを思^おい、復^ふ活^{かつ}をた^たえよう。主^{しゅ}が来^こられるまで。」と。

さて、今日^{きょう}はその愛^{あい}の晩^{ばん}さんであるミサ^{わたし}を私^{わたし}たちがど^{じゅんび}のよ^{じゅんび}うに準^{しん}備^びすべ^{しん}きか^{みな}について、信^{しん}者^{じゃ}の皆^{みな}さんと分^わかち合^あいたいと思^{おも}います。ルカ^{ふくいん}による福^{さいご}音^{ばん}には、最^{さま}後^{つぎ}の晩^{ばん}さんでイエス様^{さま}がおっし^{つぎ}ゃった次^{つぎ}の御^み言^{ことば}葉^かが書^くかれていま^ます。「苦^{くる}しみ^うを受^まける前^{まえ}に、あな^{とも}たがと共^{とも}にこ^すの過^こぎ越^しの食^{しょくじ}事^じをしたいと、わたしは切^{せつ}に願^{ねが}っていた。」と。イエス様^{さま}は苦^{くる}しみ^{なや}や悩^{なか}みの中^{なか}でも、最^{さいしよ}初^{しよ}のミサ^{さいご}である「最^{さいご}後^{ばん}の晩^{ばん}さん」を切^{せつ}に願^{ねが}っておられ^{せつ}ました。わたし^{せつ}たちはこのミサ^{ねが}をど^{せつ}れほど切^{ねが}に願^{ねが}っているでし^{せつ}ょうか。また、ミサ^{まえ}の前^{まえ}におい^{じゅんび}て、「ミサ^{りゆう}の準^{わたし}備^{いそが}」とい^{いそが}うことを理^{いそが}由^{いそが}に、私^{わたし}たちはと^{いそが}ても忙^{いそが}しく、ざ^{いそが}わつ^{いそが}っている気^{いそが}がしま^{いそが}す。こ^{いそが}こ^{いそが}で、今^{きょう}日^{ふくいん}の福^{かた}音^{にかい}が語^へっている2^{せき}階^{とどの}の部^{せき}屋^{とどの}、た^{せき}だ^{とどの}席^{とどの}だけ^{とどの}が整^{とどの}え^{とどの}ら^{とどの}れてい^{とどの}るその^{とどの}静^{しず}かな^{しず}所^{しず}に目^まを凝^まら^{しず}してみ^{しず}ま^{しず}し^{しず}ょう。それは、イエス様^{さま}がいら^まっし^{しず}ゃるこ^{しず}を待^まっている静^{しず}け^{しず}さ^{しず}です。典^{てん}礼^{れい}の準^{じゅん}備^びや聖^{せい}歌^か練^{れん}習^{しゅう}、或^{ある}は、い^{もの}ろ^{はん}い^びろ^びろな物^{もの}の販^{はん}売^{ばい}の準^{じゅん}備^び、また、今^{いま}はロ^{ほう}ビ^しー^{だい}での奉^{ほう}仕^しも大^{だい}事^じ

なことです、何より必要なのは心を静かに整えることではありませんか。声を低くし、口数や往来を減らし、互いの心にイエス様の席がちゃんと整えられるようにすることこそが、主の最後の晩さんにふさわしい姿勢だと思えます。また、イエス様の最後の晩さんは2階で行われましたが、その部屋はきっとその家の最上の部屋でしょう。ミサは私たちの活動の中で一番高く扱われるべきです。普段の生活は勿論、教会の活動の中でもミサが中心で、最高の場所を占めるのは当たり前のことでしょう。

新型コロナウイルスのせいで、信者の皆さんと共に捧げるミサが中止された時、わたしは独りでミサを行ってきました。今も、水曜日を除いた平日には一人でミサを捧げていますが、とても寂しいです。そんなある日、私はホスチア、つまり、祝別される前のパンを見つめながら、「このホスチアがイエス様の御体となるのは、自分だけの為ではないだろう。これはみんなの為で、みんながいなければ意味のないことに違いない。」という思いに沈みました。そもそもミサとは、「神様の民と共に行う事」で、皆のために捧げるイエス様の祭儀なのです。ミサは「私」のための1枚のご聖体を成すためのものではなく、むしろ「あなたがたのための糧」を成すためのものです。「私」のために皆が集まってくださり、「皆」のために「私」がここにいるわけです。ですので、最後の晩さんが行われた「広間」のような広い心を整えることが必要です。愛の秘跡、平和の秘跡、一致の秘跡、分かち合いの秘跡であるミサは、和解の秘跡でもあります。ミサの中でご聖体の形でおられるイエス様の愛を心に刻み、これからもその愛をもってミサに忠実に与ることができるよう、お祈り致します。